

富士市中小企業景況調査結果

令和7年度 第1四半期【令和7年4月～6月】

令和7年7月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、199事業所(回収率66.3%)を対象に、「令和7年4月～6月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI（景気動向指数）とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた
値。

前期…令和7年1月～3月 今期…令和7年4月～6月 来期…令和7年7月～9月

表中の矢印＝5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲7.6	↘	▲15.4 (▲9.1)	→	▲14.6
売上	▲4.2	→	▲3.1 (1.4)	→	▲3.1
採算	▲19.5	→	▲22.3 (▲12.8)	↗	▲16.9

今期調査では、全産業合計の業況DIが-7.8ポイントの減少、売上DI+1.1ポイントの増加、採算DI-2.8ポイントの減少となった。来期の予測については、業況・売上で横ばい、採算DIが改善の予想となった。業種別の来期業況DIは、製造業・卸売業・小売業は上昇、建設業・サービス業は下降を予想。売上DIは、製造業・小売業は上昇、サービス業は横ばい、建設業・卸売業は下降を予想。採算DIは、製造業・建設業・卸売業・小売業は上昇、サービス業は横ばいを予想となった。

全体を通して、物価高騰の影響と人手不足に関するコメントが多かった。日産関連やトラック関税に関するコメントが目立った。

経営上の問題点では、製造業・建設業では「人材不足」、卸売業では「商品、原材料仕入れ価格の上昇」、小売業では「設備老朽化」、サービス業では「人件費高騰」が経営課題で1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業・卸売業・小売業は横ばい、建設業・サービス業は下降。

来期は、製造業・卸売業・小売業は上昇、建設業・サービス業は下降を予想。

業 種	前 期		今 期 (前年同期)		来期予測
製 造 業	▲18.2	→	▲21.6 (▲13.1)	↗	▲16.2
建 設 業	7.4	↘	▲10.8 (▲4.2)	↘	▲17.8
卸 売 業	▲14.3	→	▲15.0 (▲27.3)	↗	▲5.0
小 売 業	▲25.0	→	▲23.5 (▲20.0)	↗	▲17.7
サービス業	9.1	↘	▲7.1 (14.3)	↘	▲14.3
全 産 業	▲7.6	↘	▲15.4 (▲9.1)	→	▲14.6

〔売上高のDI〕 製造業・建設業・卸売業は上昇、小売業・サービス業は下降。

来期は、製造業・小売業は上昇、サービス業は横ばい、建設業・卸売業は下降を予想。

業 種	前 期		今 期 (前年同期)		来期予測
製 造 業	▲21.2	↗	▲11.2 (2.6)	↗	8.1
建 設 業	▲7.4	↗	0.0 (8.3)	↘	▲14.3
卸 売 業	0.0	↗	25.0 (▲17.4)	↘	▲10.0
小 売 業	0.0	↘	▲35.3 (▲15.0)	↗	▲11.7
サービス業	18.2	↘	3.5 (20.7)	→	3.8
全 産 業	▲4.2	→	▲3.1 (1.4)	→	▲3.1

〔採算のDI〕 小売業は上昇、製造業・サービス業は横ばい、建設業・卸売業は下降。

来期は、製造業・建設業・卸売業・小売業は上昇、サービス業は横ばいを予想。

業 種	前 期		今 期 (前年同期)		来期予測
製 造 業	▲21.2	→	▲18.9 (▲7.9)	↗	▲13.5
建 設 業	▲25.9	↘	▲32.1 (▲16.7)	↗	▲21.4
卸 売 業	▲9.5	↘	▲30.0 (▲30.4)	↗	▲25.0
小 売 業	▲26.7	↗	▲17.6 (▲25.0)	↗	▲5.9
サービス業	▲13.6	→	▲14.2 (7.1)	→	▲17.8
全 産 業	▲19.5	→	▲22.3 (▲12.8)	↗	▲16.9

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…「原材料、経費（運賃等）の値上がりをどこまで商品に転嫁するかが難しい。商品の値上げができて売上も減少となってしまう。また、人手不足により思うように生産量も上がらない状況である」「PPC 紙はペーパーレスの影響を受けている。家庭紙はインバウンド等により販売は好調であるが、供給過多の状況にあると考えられる」「値上げ交渉が難航している。あらゆる物の値上がりや人件費の高騰など、製品価格に転嫁したいが、注文が他社に移るおそれがあるため、対応が非常に困難である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「家庭紙は万博開催などによる人流増により業務用の消費増大が見込まれる。しかし、物流問題への対応として、労働時間や積載方法など課題が残る。長尺化や効率化等の自助努力には限界があり、価格見直しを随時進めていかなければならない」「事業規模の大きいところに集中してゆく動きが目立ってきている」「家庭紙の供給過多の状況は変わらず、需給バランスを考えないと製品単価の下落も考えられる」「物価高による消費の冷え込みにより、メーカーの生産調整が続くなど先行きが見えない。明るい兆しがない」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「自動車部品等については動きがあまり良くない。関税問題は別として、日産の動向により先行きは厳しい。工作機械関連部品は大きな変動もなく推移している」「基幹産業である自動車の低迷が、かなり深刻な状況になっている。その結果、裾野の会社が全般的に悪い」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「これといった起爆要因が見当たらない」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「不安定な世界情勢の影響があらゆる面で生じており、今後も業況悪化への懸念を抱いている」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「日産の動向不安の影響を受け、受注量が減少している」「材料価格および人件費の上昇の影響が大きい」「円の変動が無いため、当分の間変わらないとみられる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「トランプ関税の状況が把握できず、今後の見通しは不透明」「トラック業界の再編により、大きく変化する可能性がある」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…「自動車業界では下期に発売となる新車種が少ない。このため、新車種生産に向けた設備需要が少ない。これは、昨年自動車関連企業で不正問題が多発したため、メーカー各社の開発が慎重になっており、新車種投入が遅れていることが要因と考えられる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「本年度下期はトランプ関税の影響がどこまで出るか不透明であるが、自動車業界にとってはネガティブなシーズンとなる」とのコメントが寄せられた。

『電子機器』…「当社製品と比較して、簡易な構造ではあるが安価な製品が市場に増えてきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「自動点呼解禁により、当社製品の需要増が見込まれる」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…「外注先の値上げ要求に応じてはいるが、その分の価格転嫁は厳しい」「6 月末に同業者 1 社の廃業が決定した」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「受注は昨年同様に推移する見通しであり、利益確保が当面の課題となる」「同業者の廃業がここ 2～3 年目立ってきている。平成初期には市内に約 17 社の同業者がいたが、令和 7 年 6 月現在では 6 社まで減少している」とのコメントが寄せられた。

『食品・飲料』…「製造原価と物流費が上がり続けている。商品への価格転嫁をしているが、販売数量は減少している。今のところ倒産・廃業の話は聞かないが、今後そのような会社が出てくると思われる」「原材料不足や価格高騰により、減産や生産できない商品が発生しており、販売を休止している商品もある」「円安や原材料の高騰が利益を圧迫している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「消費低迷は続くと思われる」「原材料費、物流費、人件費などの高騰により、商品の値上げを実施せざるを得ない状況が続くと思われる」「同業種で M&A を進めていきたい」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「市内の自動車業界は日産色が濃く、大手企業が製造している製品がトランスミッションであることもあり、今後厳しい状況になると考えている。製紙でキラリと光る企業はあるが、市の経済を引き上げるだけの規模ではない。今後の成長を見込める大手企業の誘致は必要不可欠である」「過去 2 回（令和 3 年 7 月、令和 5 年 6 月）水害（工場内浸水）に見舞われた。市の水害対策も十分ではなく不安が残る」「若い力を色々感じており、2 代目・3 代目のパワーに期待が持てると思われる」「景気動向の不透明感や大手企業の業績不振により、先行きに対する不安感が高まっている。また、早期退職の実施等により、地域に溢れた人員の再就職や就職斡旋の仕組みを整えていく必要があるだろう」「かりがね橋の開通から 1 年 3 ヶ月が経過したが、渋滞は約 4 割解消されている」「学習塾の跡地に新たにケーキ屋が開店した。長い間空き家だったため、治安の面でも営業が継続されることを望む」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期 D I	来期予測
業 況	10.8	56.8	32.4	▲21.6	上 昇
売上高	19.4	50.0	30.6	▲11.2	上 昇
採 算	13.5	54.1	32.4	▲18.9	上 昇

〔建 設 業〕 景気ムード…【 低 調 】

『総合建設』…「建設業界は人手不足と高齢化が深刻化する一方で、ICT や DX の活用が急務となっている。AI をはじめとする生産性向上の手法を使いこなすことが、成長の鍵になると考えられる」「公共工事における行政側の発注額が細分化され、企業ランクによる区分けがなくなり、大小が混在する受注競争が激化している」「案件は多数あるが、人手不足により生産能力（施工能力）が追い付いていない状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「資材・人件費のコスト増が継続し、人手不足や採用難が深刻化している。計画的な経営を行い、確実性のある進展を行うことが望まれる」とのコメントが寄せられた。

『建設関連（資材・解体・建設車両等）』…「富士地域においては、公共工事が一昨年度くらいから大幅に減少している。民間の設備投資は、昨年度から計画されていたものがあったため、今年度上期あたりまでは例年並みが予想される。今年 4 月から製品値上げが実施されたため、出荷量の確保ができれば採算面は多少改善される」「需要は堅調であるものの、産業廃棄物の処分先の不足リスクが継続している。処分費の値上げも続いており、人材紹介会社の相場が高騰している。法的制約が緩く、異常な相場となっている」「首都圏・関東圏での物流倉庫を中心とした建設投資が一巡し、需要が低調になっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「民間の設備投資に期待したいが、原材料・人件費の高騰に伴う建設工事価格の上昇により、企業の投資意欲がどこまで継続するかが最大の不安要

素である。次年度以降も原材料であるセメントの値上げが計画されているとの噂があり、販売価格に転嫁できるかが課題である」「地場産業以外の地域での需要の堅調さに支えられている。今後もその傾向が続く様相を見せている。定年再雇用の進展や平均年齢の上昇により、採用だけでなく中間管理職の育成と若手の育成が課題である」「トランプ関税等、世界的な景況の不透明感が高まり、設備投資が抑制的になっており、建設需要は盛り上がらないと予想している」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅』…「さまざまな値上げに伴い建築費が高騰しており、家を建てる人が減っていくのではないか」「4月の建築基準法改正により、3月まで止まっていた確認申請業務が一気に動き出し、しばらく現場施工する業者は忙しくなると思われる。敷地面積や家族構成にもよるが、平屋建が増加傾向にある。瓦屋根の住宅は減少しており、寂しさを感じる」「需要の低迷がさらに進むため、受注が難しくなっている。新規事業部門の確立を急ぎたい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「出生率の減少や未婚者の増加など、課題が山積しており、マーケットは縮小していく。1区画の敷地面積を大きくすることで空家問題の解決にもつなげていきたい」「人口減少に起因する需要減が課題であり、新規事業への対応が急務である」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…「トランプ関税により投資が減少する可能性が高い」「建設業においては、公共工事の発注数が減少し、仕入材料費が値上がりしている」「工事における人員不足および高齢化が進行している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「過当競争と競争力の低下により見通しは厳しい」「関税の動向が不安要素である」「景況が良くなるとは考えにくい」「人員不足と人件費の高騰が課題である」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「人手不足により受注しても対応が困難な状況である」「民間からの草取りや樹木の剪定・伐採の依頼が多くなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「人員不足・人材不足が続いている」「公共工事の発注がない」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「ディズニー仕様の新幹線が通る時間には、田んぼと富士山を背景にしたフォトスポットにカメラマンが多く集まっている」「毎日お米に関するニュースが流れているが、地産地消ができれば高いお米を買わずに済むのではないか」「新富士駅南地区の開発遅延や、夢の大橋から国道1号バイパスへの接道の遅延が地域経済の発展の妨げになっている。立ち退きや土地買収が必要であれば、行政の決断とイニシアティブが強く求められる」「官公庁の需要が停滞している」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	7.1	75.0	17.9	▲10.8	下 降
売上高	17.9	64.3	17.9	0.0	下 降
採 算	0.0	67.9	32.1	▲32.1	上 昇

【卸 売 業】 景気ムード…【 低 調 】

『機械器具』…「自動車業界が厳しい。富士を含む東部地区だけでなく、中部・西部地区もかなり厳しい状況である。自動車業界全体が冷え切っており、これがいつまで続くのか心配

である」「物価高とエネルギーコスト増の影響を受けつつも、業務用厨房機器・空調機器の更新需要は底堅く推移している。省エネ化ニーズ、衛生管理強化、補助金活用を背景に、買い替えや修理の引き合いが増えている。地域の動向としては、富士市を中心に地元企業、飲食店、医療福祉施設の需要は安定している。特に空調については、公共施設や学校の新規案件が今期増加している。自社の状況としては、小口修理・洗浄依頼からの継続取引が順調に伸び、新規取引先の開拓に繋がっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「世界情勢や日本の政治の混迷により先行きは不透明であり、コメントできない」「需要動向については、夏場に向けてエアコン関連の緊急対応・洗浄依頼が増加する見込みである。また、建築士会をはじめとする設計協力体制の構築により、公共施設案件の情報取得が早期化し、安定的な受注に繋がる見通しである。物価高に伴う仕入単価の上昇が続くが、顧客単価を適正化し、見積段階での利益確保を徹底する。若手営業員への育成投資を継続し、担当案件の粗利意識を高める取り組みを続けている。富士市の全体業況調査と比較しても、自社は安定軌道にあると考えている」とのコメントが寄せられた。

『金属部品』…「あまり活発に動く時期ではないため、受注ストックを消化していると思われる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現在の景気は下降局面にあると考えられ、新たな設備投資には慎重な姿勢が見られるが、力のある企業は次のジャンプアップに向けた投資準備を進めていると予想している。新たな投資効果が現れるには年単位の計画が必要であるため、景気は当面横ばいで推移すると見ている」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』…「相変わらず人手不足が続いている」「物価高、賃金上昇など社会全体の流れが株式市場や農業などにも影響を及ぼし、世界の政治動向の影響も加わり、先行きは厳しいと感じている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人員確保が必要である」「トランプ関税の行方次第では取引先の動向が変わる可能性があり、零細企業にも多大な影響が及ぶおそれがある」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』…「製紙原料業界では、部門ごとの縮小傾向、業界の統合傾向、販売競争の激化、弱者の廃業が進んでいる」「依然として古紙は減少しており、生産も活発ではない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「製紙会社を起点とし、加工業界、そして製紙原料業界で統合再編が始まる。業界全体の取扱量を維持するため、資源回収分野の裾野を広げることが求められており、他分野から参入する企業と、産廃業界に手を伸ばす企業とのすみ分けが進むであろう」「今後も産業古紙の発展は見込めず、生き残るのは困難である。現状のままではとても生き残れず、得策も見つからぬまま日々が過ぎ、将来に希望が持てず気持ちが沈む一方である」とのコメントが寄せられた。

『包装資材』…「今年の秋以降に関税の影響が出てくると予想される」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』…「鉄スクラップは上昇傾向にある。米政権による鉄鋼への追加関税を受け、米国でスクラップ価格が上昇し、それが日本にも波及している。国内の鉄鋼製品の需要は低調でスクラップ需要は減少しているが、異例の値上がりが見られる。非鉄相場についても米大統領の言動に左右されており、米中両国の追加関税引き下げによって中国景気の減速が懸念されている」「国内外の需要減少により鉄スクラップ需要が少ない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「米大統領による相互関税の影響で世界景気の減速が強まると見られる」「鉄鋼使用量の増加は当面望めない」とのコメントが寄せられた。

『食品』…「長引くしらすの不漁により仕入価格が上昇している。売上は伸びているが利益は出ず、さらに今年は電気・ガスなどの光熱費や米・野菜などの物価高の影響も重なり、経営は非常に厳しい状況である」「M&A が加速し、業界再編が進んでいる。中小企業は後継者が決まらず、模索を続けている企業が多い傾向にある」とのコメントが寄せられた。今後の見

通しについては「当漁協の運営はしらすの豊漁・不漁に大きく左右されるため、今期のしらす不漁がいつまで続くか不明な現状では見通しが立たない」「必要不可欠な業界ではあるが、市内外での競争が激化する中で、地元のユーティリティを活かした戦略が求められる」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「富士市内の中小企業の一部ではコスト高により利益率低下の声が上がっているが、弊社は“スピード対応”と“現場力”という自社の強みを活かし、地域内シェアを維持している。新たに入社した事務員の業務最適化を進めつつ、営業・現場チーム間の連携を強化し、ミス防止と顧客対応力の向上を図っている。地域建築士会や飲食店ネットワークとの連携も強化し、“頼れる厨房・空調パートナー”としての存在感をさらに高めていく方針である」「トランプ政権の影響を強く受ける業種に報道や行政が過度に注目しており、影響を受けていない中小企業までが萎縮している感がある。市内企業は自社への影響を自覚し、線引きができ始めているように思う。注意点として、コロナ禍に行政と金融機関が大量の資金を貸し付けたが、返済中にさらに貸し付けを進めると、再建不可能な破綻に陥るおそれがある。金融機関は保証協会が付いているため“とりあえず借りておく”という姿勢が見られるが、会議所には安易な借入に頼らない経営支援を期待したい」「水田が宅地となり、このような厳しい時勢の中でも住宅販売が行われていることは素晴らしい」「富士市には車関連企業が多く、日産本体および協力会社、ジャトコの協力会社においても従業員削減が進んでおり、地域にとって大きな痛手となっている」「業界内の競争がますます激化し、取扱量の減少により中小企業では解散が増加している」「買い物難民が解消されるような新しい事業が徐々に生まれつつある」「急な事業転換は難しく、現状で努力を続けるしかない」「自動車関連企業で早期退職者を募集する動きが見られる」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	5.0	75.0	20.0	▲15.0	上 昇
売上高	40.0	45.0	15.0	25.0	下 降
採 算	5.0	60.0	35.0	▲30.0	上 昇

【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『衣類』…「ユニフォームをホームセンターで購入するケースが増加しており、専門店で販売が減少している。専門店の方が価格・性能面で優位性があると思うが、それが消費者に伝わっておらず、ホームセンターに流れてしまっている。商売の難しさを痛感している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「6月に施行された法人向け熱中症対策により、夏服需要は例年よりも良好である」「地域のイベントや祭りなどにおいては、若年層の人口が激減しており、需要が少ない」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「新製品開発に注力しすぎて、既存商品の品質が低下している。生産性を重視しすぎた結果、細部への配慮が欠けている商品が目立つ」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「こんな時代だからこそ“癒し”は必要であり、それに関連する事業には明るい展望があると考えられる」「人材育成が課題である」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「電機業界ではLED化を早期に提案している。直管・丸管蛍光灯は2027年9月に、その他の特殊管は2026年9月に生産終了するものがある。工場や社屋では周知が進みLED化が始まっているが、一般住宅では浸透しておらず、今後の声掛けが重要である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「広いリビングに合う大型テレビが見やすいとの理由から、大型化が進んでいる。大型画面での見やすさと電気代を抑える省エネタイプの普及も進んでいる」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…「歯止めの利かない少子化により、営業努力だけではどうにもならない状況である」「今期は特に大きな変化はない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「子供向け玩具からいかに他業種に挑戦し、業態転換を図れるかが鍵となる」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「需要が少ない時期であり、高温により品質の低下や品不足、それに伴う仕入れ価格の上昇が懸念される」「お盆、お彼岸、母の日など物日に対する価値観が年々変化してきており、需要の低迷を実感している。需要と供給のバランスが崩れており、価格変動が激しいケースも生じている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「回復の兆しは感じられない」「見通しは依然として厳しい」とのコメントが寄せられた。

『飲料品・食品』…「原材料費・人件費の上昇が続いており、採算が厳しい状況である」「茶種によって原料不足と原料過多が発生している。原料不足はペットボトル原料および海外向けの抹茶類、原料過多は煎茶などの国内向けリーフである。今後もこの傾向は続く見通しである。海外需要はあるが、原料不足により販売に結びつかない。国内向けの煎茶は新茶シーズンに一定の売上が見込めるため、上半期は何とか販売を維持できているが、新茶需要も減少傾向にある。現在、業界内で最も懸念されているのが原料不足である。国内需要の低迷により、煎茶用から抹茶用にシフトした生産者が増加している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「当店では5月にカフェコーナーをオープンして以降、売上が改善している。例年売上が落ち込む夏場も、カフェコーナーの効果で改善を見込んでいる」「空前の抹茶ブームと健康志向による日本食ブームが世界的に広がっており、茶の輸出量はさらに増加傾向にある。ただし、海外でも茶の生産が進んでいるため、今後の輸出には慎重な対応が必要である。ペットボトル需要とインバウンド需要により、低価格の煎茶が枯渇し、全体的に原料相場の上昇は避けられない」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「依然として仕入れ価格の高騰は続いているが、値上げ率は下がってきているように思える。ただし、品質を落とすことで値上げ率を抑えているため、好ましい状況ではない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「業界全体として明るい話題はなく、自転車の交通ルールが厳格化されていることから、自転車離れが懸念される」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「業界の動向とは別に、従来の急須を使った丁寧な接客が顧客に喜ばれる販売手法であることを改めて実感している。富士山観光に訪れたインバウンド客への対応や、豪華観光列車内でのウェルカムドリンクの提供では購買率が非常に高く、不特定多数向けのネット販売では得られない効果がある。こうした接客は日本茶ファンの獲得と高級煎茶の普及に大きく貢献しており、海外輸出やペットボトル商品の展開は大手に任せ、当社は丁寧な接客により日本茶専門店としての価値を高めていきたい」「吉原祇園祭が開催され、山車引き回しや神輿渡御のほか、警察音楽隊のパレード、木遣り、神社の花手水などが行われ観光色が強まっている。交通規制の範囲が広がり、観客が分散された印象がある」「元気を分けてもらえるような店舗の出店を望んでいる」「先日富士市で開催された自転車イベント“富士グラベル”も無事に終わり、来年は規模を拡大して開催されとのことで、期待している」「富士駅北口の再開発により、商店街の来訪者が減少していることは否めない」「今年の吉原祇園祭も多くの人で賑わった。土曜の夕方は雨に見舞われたが、日曜の人出は多かつ

たように思う」「富士駅北口の再開発に伴い、いよいよ解体作業が始まるようである。少しずつ更地になっていく様子をしっかりと目に焼き付けておきたい」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	11.8	52.9	35.3	▲23.5	上 昇
売上高	17.6	29.4	52.9	▲35.3	上 昇
採 算	11.8	58.8	29.4	▲17.6	上 昇

【サービス業】 景気ムード…【 安 定 】

『飲食』…「週末の人出は多く、どの店も忙しいようである。平日の人出にはばらつきがあり、街としての求心力を強化していく必要がある」「春休みやゴールデンウィークの人出、インバウンド復活により売上は前年比を上回っている店舗が多い一方で、人件費高騰の影響により人手不足に対応できず、倒産リスクが高まっている」「ゴールデンウィークが飛び石連休だったため盛り上がりには欠けた。米価格の高騰により家計が圧迫されていると感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「富士駅前の再開発が始まる。テナントがどうなるか不安もあるが、外国人による不動産取得などが無いよう、地域の文化や住民を守ることを第一に考えてほしい」「物価高が継続すると予想しており、買い控えの増加が懸念される」「昨年同様の猛暑となれば、再び客足が伸び悩む可能性が高い」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「インバウンドの勢いが衰えないため、引き続き需要は見込めるが、グループ移動が多いため店内に入れにくいケースも多々ある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「しばらくはこのまま推移すると思われるが、梅雨入りによりインバウンド客はやや減少している。夏になれば回復すると想定している」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「仕事量は増加しているが、人件費および材料費が軒並み上昇している。国の基準に沿ってエコ材料に変更していることもあり、コストが増加している。人材が不足しており、生産体制は厳しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「規模拡大を図りたいが人材確保が難しい」とのコメントが寄せられた。

『求人広告』…「求人需要は増加傾向にあるが、雇用のミスマッチが継続的に発生しており、採用難の状況に変化はない。求人商品の過当競争が激化しており、商品単価の低下が続いている。この状況が継続する場合、会社経営に大きな影響を与える」とのコメントが寄せられた。

『広告サービス』…「物価高により電気代・燃料代などの経費が増加している。さらにトランプ大統領の関税政策に対する不安が広まり、日本経済にも不安定な雰囲気漂っている。当面は経費削減に努めるしかない」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…「過当競争が続いている」「中小企業の経営者の高齢化により事業承継が不可欠な状況となっている。時代の変化に対応できず、事業縮小や会社の解散が多く発生している。また、M&Aの動きも活発化しており、当業界にとっては厳しい状況である」「業界全体が高齢化しており、廃業が増加する一方で、若手人材が不足しているため、業務を受け入れられる事業所が減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「人

手不足とトランプ政権の誕生により、今後も不確実な状況が続くと考えられる。中小企業においては資金力に格差があり、賃上げもままならず、生き残りをかけた時代になると思われる」「組織力があり、生産性の高い事業所に仕事が集中すると予想している」「同業他社が手を出しにくい分野の業務が増加しているが、独学や問い合わせに時間を要しており、時間の使い方に課題を抱えている」とのコメントが寄せられた。

『観光バス』…「人口減少に伴い需要が減少している。今後も需要は減り続けると予想され、業界の存続が危ぶまれる。物価高騰も経営を圧迫し続けるであろう」とのコメントが寄せられた。

『クリーニング』…「中東の紛争の影響により燃料費が上昇している。資材や薬品も高騰している」とのコメントが寄せられた。

『葬祭業』…「大手の市場参入により競争激化が予想される」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「物価高騰の影響は資材価格に大きく現れているが、住宅価格への転嫁が難しく、結果的に土地価格の下落を招いている。中小住宅メーカーの経営が厳しく、土地の流動性は低い」「相続による空き家・宅地・農地の売却希望が増加している。事務所周辺でも同様の動きがあるが、地形が悪く土砂災害警戒区域に指定されているため売却が難しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「現在の状況は当面続くと予想され、土地の取得価格はさらに低下する可能性がある」「造成計画を立てても、コンクリートなどの資材高騰により販売計画に支障をきたす懸念がある。極端な売上減少の可能性もある」とのコメントが寄せられた。

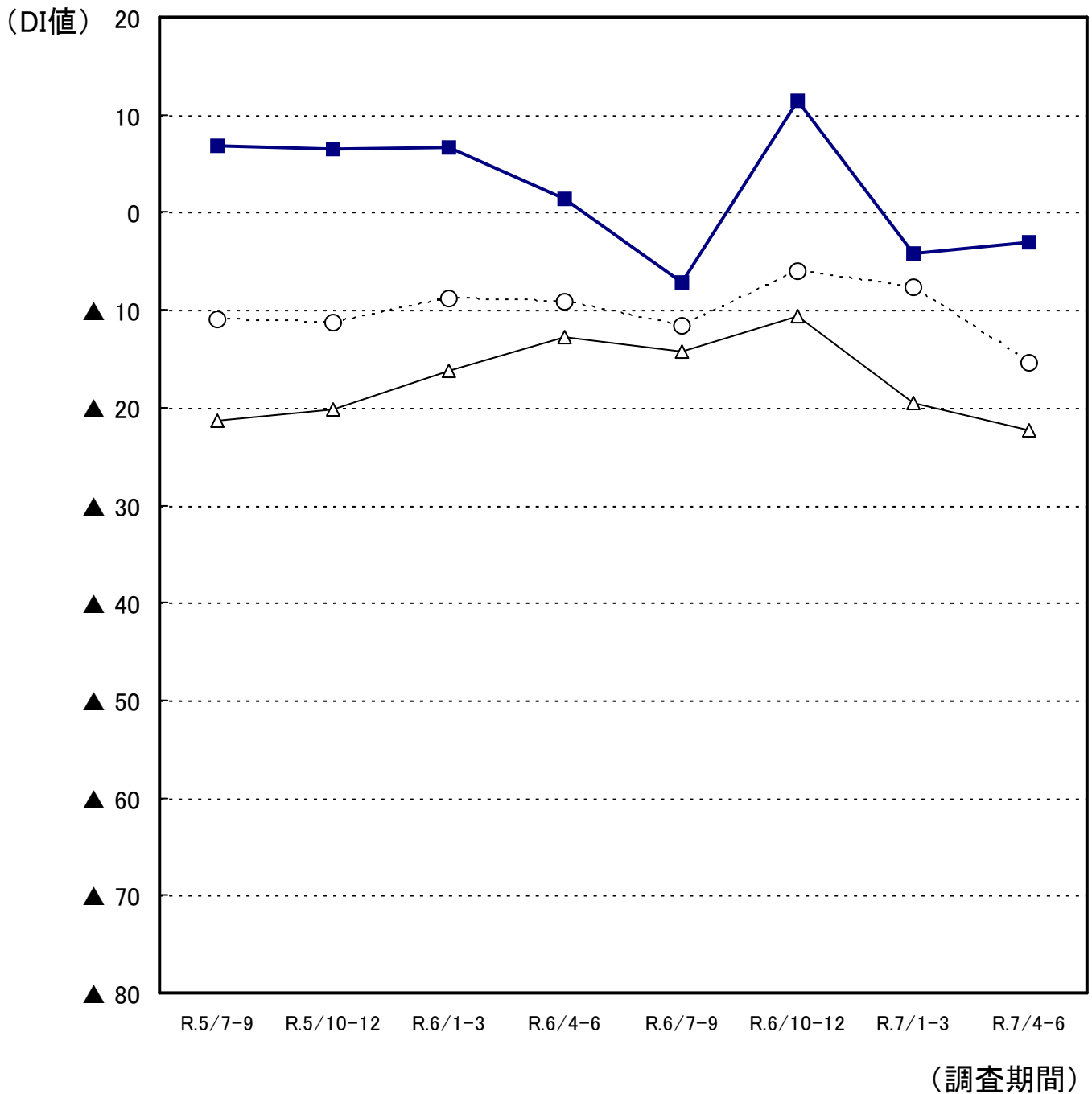
『旅館・ホテル』…「スポーツ交流人口の増加により人流は活発化している。イベントも増えており、ここ数年は上昇傾向にある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「サッカーワールドカップ、オリンピック、世界選手権などの国際大会での日本人選手の活躍が、全体の士気向上に寄与すると見ている。大リーグの大谷翔平選手の効果も絶大であり、スポーツ文化の進展は今後も続くと考えている」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「飲食店では店舗数の減少や収益力の低下が進んでいる」「修学旅行シーズンで新富士駅周辺に多くの保護者が待機しているが、通路をふさいだり駐車場での喫煙が目立ち、印象が悪い。教職員が注意する様子もなく、改善が望まれる」「日産の影響で関連会社の人員整理が多く、人員の再雇用の動向に注視する必要がある」「沼津線沿線や根方街道沿線では更地が目立つ」「製紙業と自動車（ジャトコ）関係は不調だが、それ以外の業種は堅調である」「少子化が加速しており、各種イベントの開催時期ではあるが、子どもの数が少なく、祭りの運営そのものが危ぶまれている」「実相寺の睡蓮が非常に美しく、午前10時頃に満開となり、昼過ぎにはつぼみに戻るため、観賞には時間帯の注意が必要である」「ナイトマルシェというイベントを2ヵ月に1回程度開催しており、地域住民の関心も高く、継続開催を望む声が多い。今後もさまざまな形で実施を検討していきたい」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	17.9	57.1	25.0	▲ 7.1	下 降
売上高	32.1	39.3	28.6	3.5	横ばい
採 算	17.9	50.0	32.1	▲14.2	横ばい

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■売上 ...○... 業況 —△— 採算

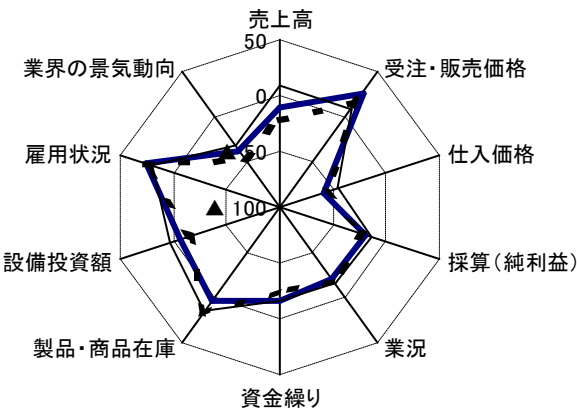


レーダーチャート

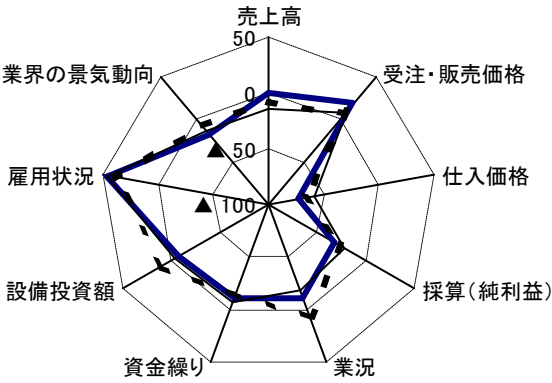
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

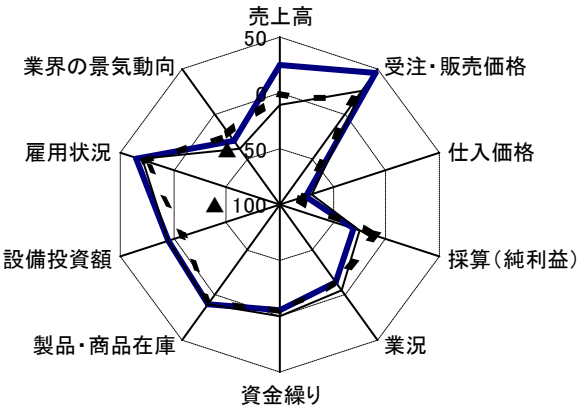
【製造業】



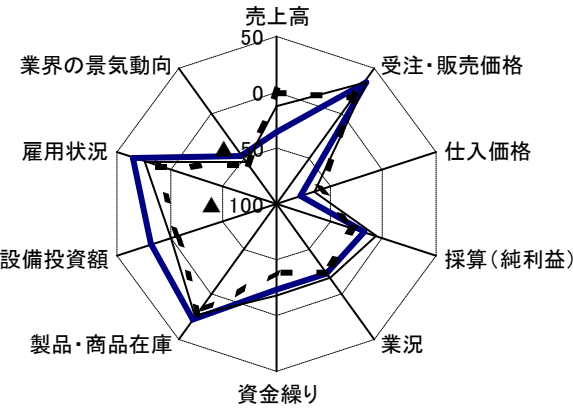
【建設業】



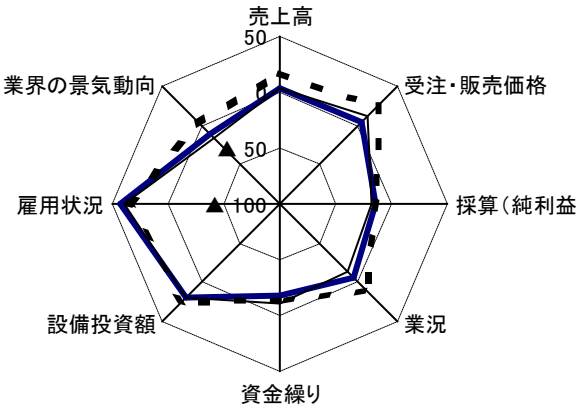
【卸売業】



【小売業】



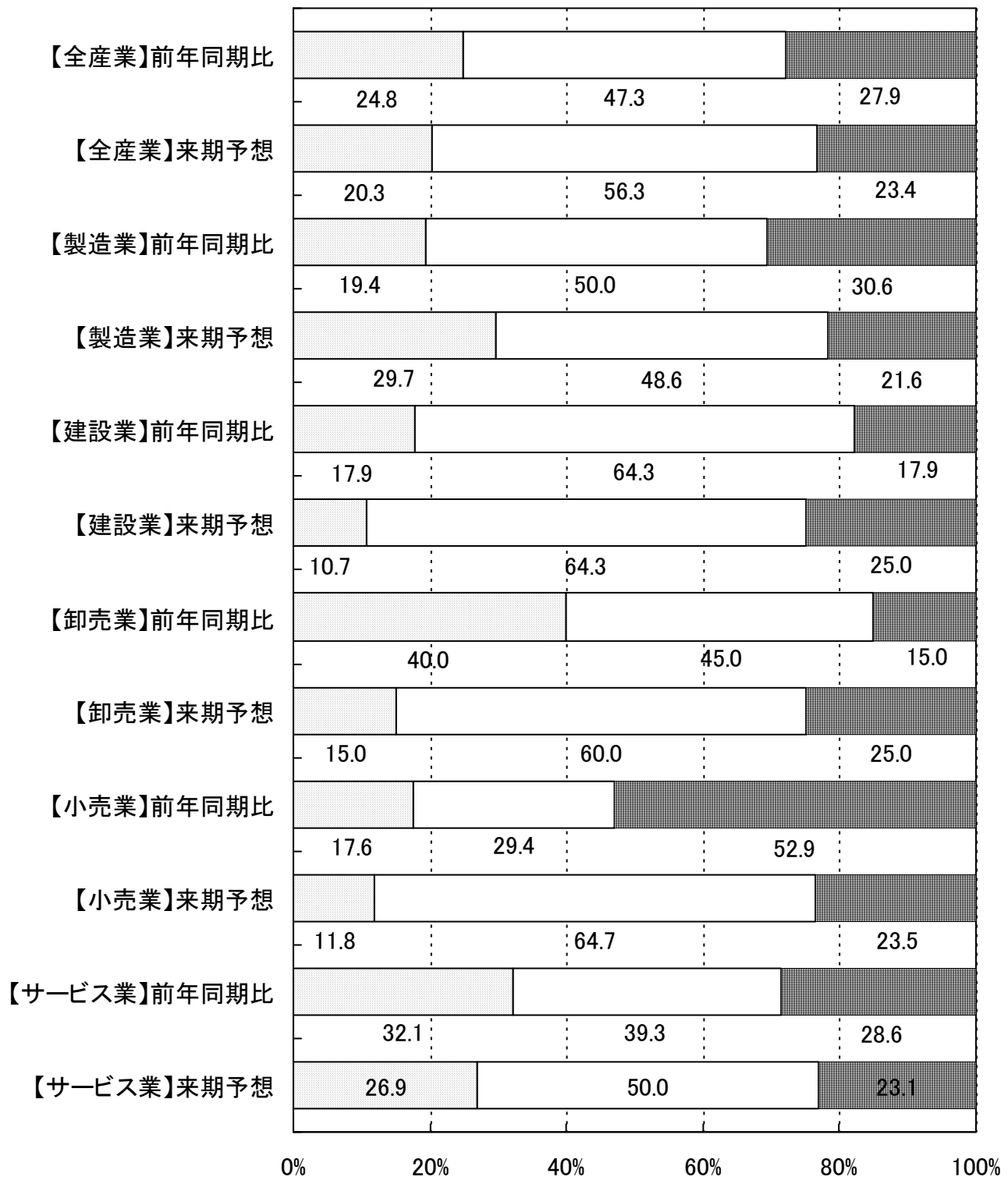
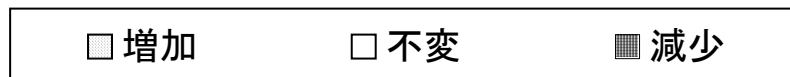
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産 業 別	上 位 回 答 項 目
製造業	1 位 人材不足 2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 3 位 人件費高騰 その他 販売価格値上げ難／設備老朽化
建設業	1 位 人材不足 2 位 人件費高騰／人員不足 3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 その他 販売価格値上げ難
卸売業	1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 2 位 人件費高騰／人材不足 3 位 過当競争／人員不足 その他 販売価格値上げ難／設備老朽化
小売業	1 位 設備老朽化 2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 3 位 販売価格値上げ難 その他 売上減に伴う利益減／売上、利益減による資金圧迫／人材不足
サービス業	1 位 人件費高騰 2 位 その他の需要の低迷／設備老朽化 3 位 人材不足／人員不足 その他 商品、原材料仕入れ価格の上昇

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2025 年 3 月 14 日）

日 本 銀 行 静 岡 支 店
照 会 先 TEL 054-273-4106

（経済面）県内の景気は、緩やかに回復している。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は製造業を中心に増加している。個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、緩やかに増加しつつある。住宅投資は弱含んでいる。こうしたもとで、企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース、地銀・第二地銀）は、前月比上昇している。企業倒産（負債総額10 百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

-
1. 需要項目別の動向 ※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘
- （1）個人消費（前回からの変化） → 緩やかに回復している。
百貨店・スーパー売上高は緩やかに回復している。コンビニエンスストア販売額は緩やかに回復している。ドラッグストア販売額は増加している。家電販売額は持ち直している。新車登録台数・販売台数は持ち直している。旅館・ホテルの宿泊数は人手不足等の影響を受けつつも、緩やかに回復している。
- （2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（公共工事請負金額前年比：25/1月▲14.9 ➡25/2月▲7.9%）
- （3）設備投資（前回からの変化） → 製造業を中心に増加している。
（短観・設備投資額：23年度計画8.1% ➡24度計画13.4%）
- （4）住宅投資（前回からの変化） → 弱含んでいる。
（新設住宅着工戸数前年比：24/12月▲30.8% ➡25/1月51.6%）
- （5）輸 出（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（輸出額前年比：24/12月2.7% ➡25/1月▲12.9%＜速報値＞）
清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：24/11月▲0.3%⇒12月▲3.3%<速報値>)

自動車・同部品は横ばい圏内の動きとなっている。二輪車・同部品は弱含んでいる。食料品は横ばい圏内の動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は弱めの動きとなっている。化学は横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は持ち直している。紙・パルプは横ばい圏内の動きとなっている。楽器は弱めの動きとなっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。

(有効求人倍率 季節調整値：24/12月1.08倍⇒25/1月1.10倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比24/12月3.5%⇒25/12月3.6%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(25/2月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(18件<前年比：100.0%>)
負債総額(24億円<同：147.4%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：24/12月末+1.4%⇒25/1月末+1.2%)

(3) 貸 出 前年を上回っている。(前年比：24/12月末0.5%⇒25/1月末1.0%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比上昇している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：24/12月1.367%⇒25/1月1.384%)

以 上